

「神の寛容と忍耐！！」

～父の神の愛の忍耐！！～

マルコ15：26～34

■ 父なる神の愛

イエスの生涯をつづった映画などは多数出ていて、特に十字架にまつわるシーンについて今までに1度は見たことがあるかと思います。その映像を見てどのようなことを思い、感じたでしょうか。今回、神の目線で見ていきたいと思っています。十字架への道は見るに耐え難いような出来事が多くあります。不当な扱いをうけたり、鞭を打たれたり、のしられたりしています。そして最後まで馬鹿にされて、苦しむ姿が印象に残ります。時の為政者たち、パリサイ人、煽動された群衆の意向が優先し、間違った方向へと進みます。その中で一個人の正しい思いはかき消されてしまうような状況でした。これを全能の神ほどのように見ていたのでしょうか。我が子であるイエスが苦しむ姿を見続けなければならない、神様の力をもって介入すれば、イエスを十字架にかけなくても良くできたのではないかと思います。しかし神は忍耐しました。そして身代わりとして恩赦を受けたのが極悪人のバラバでした。このような人の横暴、理不尽な姿を見ても耐え忍びました。イエスキリストもご自身の立場を捨てて、人となり、この地上を歩まれ十字架への道に進まれました。これが神の計画でした。この犠牲の中に神の大きな愛があらわされているのです。

■ 私たちの歩み

私たちは目の前に起こることに対して右往左往したり、感情的になったり、相手に責任転嫁したりしてしまうことがあります。それは、私たち人間は物事の先まで見通し、見極めることができないからです。そして自分が変わる決断をするよりも、相手を変えようとしてしまうのです。その方が簡単です。そのような時こそ、私たちは自らを変えようとする決断をしなければなりません。そのためには神の愛と忍耐を知る必要があります。「我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか」という言葉を子どもであるイエスから聞かなければならない父なる神の心を感じて歩いていきましょう。そうすれば、私たちも耐え忍ぶことができるようになってくると思います。

■ 美術館とアトリエ

では私たちはなぜ、周りの人を見て腹が立ってしまうのか。これは1つの例えです。美術館には本物、傑作、完成品が展示されています。だからこそ、多くの人が見にいたり、魅せられていたりしています。ではアトリエとはどのようなところでしょうか。そこは製作途中の作品がおかれていくところ。これから完成を目指している段階とも言えます。私たちは周りの人を見るときには美術館のように、完成されたものとして見ていないでしょうか。しかし私も含めて、私たちはまだまだ未完成であり、不完全であり、イエスの御丈に成長する途中です。自分のことは棚において、周りを見る目だけが厳しくなっていくと争いが起こり、仲たがいでしてしまうのです。私たちの地上における生涯はアトリエにいるようなものです。誰もが神によって形、作られた姿へと変わる途中で

■ ①寛容であり続ける

神様が、私たち人間が変わる方法として用意してくださったのが、教会であり、神の家族であり、人間関係なのです。時間はかかるかもしれませんが、人と人との交流の中で、お互いに磨かれ合うのです。一人が一人と真剣に向き合っていくのです。その中で私たちは少しずつ、変えられていきます。私たちが周りと同じ向き合っていく中には寛容と忍耐が必要です。それは私たちがクリスチャン、すなわちキリストに倣う者になるにはこの2つが必要とも言えます。寛容とは「相手の言動を受け入れる、相手と向き合おうとする心、真剣に相手と関わろうとする決断」を意味しています。ですから私たちが寛容であるためには心

が騒がず、平安でなければなりません。そして寛容とは弱い火で沸かす意味があります。私たちの心が感情的になり熱くたぎってしまったら、周りに伝わる思いは正しく伝わりません。むしろ悪いものが伝わるのではないかと思います。この弱い火で徐々に沸かしていくことは、受け入れつつ、正しながら、向き合っていくことです。これが私たちの愛の表れです。『愛は寛容であり（1コリ13：4）』と語っているのです。

■ ②共に再建を成し遂げる

私たちは共に作り上げるのです。自分だけ、相手だけが良くなるという方法ではありません。神様はそのどちらも良くなること願っています。1つの物事を通して、関わるすべての人が良くなるといけないのです。『あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。（ピリピ1：6）』私たちは神様の定めた日に完成するのです。その間は互いに再建をし、できるだけ神様の造られた姿に近づきたいのです。ですから私たちはこの地上でどのような生き様を残せるでしょうか。ホスピスで多くの方々を見てこられた先生は、人生の最後の1ヶ月をどのように過ごしているのか、その人の人生が集約されているとも言っています。イエスの最後の姿はまさに神に従い通した歩みであり、神も忍耐し、救いの道を完成させていきました。この姿を通して後の世代である私たちがどのように生きて、どのように歩んでほしいかが理解することができます。

■ ③状況を理解する知恵を得る

では私たちはどのように周りの人を再建させていけるのでしょうか。これができないと再建することはできません。それは周りの人がなぜそのようなになってしまったのかを理解できないことです。その人の過去を振り返ってみて、その人の“今の行動、価値観、常識”などを作ってしまった出来事、決断を理解しなければなりません。傷ついた、裏切られてた、恥をかいた、などがたくさんあるのです。それが私たち自分には理解できないことがたくさん含まれています。自分と比べてしまえば、ありえないこと、理解しがたいことです。しかし『なぜ』そのようなになってしまったのか状況、背景が必ず存在するのです。誰でも愛したいのに愛せない、徳を高めたいのにできない、支えたいのに頼れないなどと思っていることと反対のことをしていることもあります。私たちは周りの人ができなくなってしまうことを理解をしなければなりません。イエス様はご自身を捨てて、人となって生まれてくることによって、人としての苦しみ、差別、迫害などに合いました。それは私たちが理解するためでした。同じようにイエスは十字架にまつわるあらゆる人物の心の動き、立場上の決断、行動を理解できました。理解することができたから、忍耐しました。理解できなかったら、忍耐はできません。これこそ“アンダースタンド” 私たちの下に立ち、理解して行動しました。この生き様を見て、私たちは周りの人を理解し、寛容と忍耐によって歩いていかなければなりません。イエス様の生き様をどのように感じたでしょうか。私自身はどのように歩いていくのか決断しましょう。寛容と忍耐を尽くしていきましょう。

(要約者:平澤 一浩)

(2018年4月1日)